

屋中だより

～ 屋中は今～

平成29年11月10日 No.18

千曲市立 屋代中学校

学校長 塩野入幸隆

(文責) 生徒指導係 中谷 憲朗

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~yashirojh/>

* 「屋中だより」は、屋代中学校ホームページでご覧いただけます。(千曲市教育委員会⇒小中学校一覧⇒屋代中学校)

11月人権教育月間～11/1「校長講話」より～

11月は「人権教育月間(後期)」です。5月(前期)に引き続き、人権にかかわる様々な学習に取り組んでいきます。11/1(水)の全校集会では、こうした学習の一環として校長先生からのお話をお聞きしましたので、以下に当日の講話を掲載いたします。

今日は、上越市に住んでいる宮越友里さんについて話します。宮越さんは中学校でいじめを受けて、学校に行けなくなりました。そして、その後ストレスなどの影響で難病「潰瘍性大腸炎」という病気にもなりました。高校に進学しましたが、短大では病気のために退学せざるを得ませんでした。このように大変辛い日々を過ごしています。

アメリカの有名な歌手「レディー・ガガさん」は、自分のファンである14歳の少年がいじめによって自殺をしたことについて、「いじめは違法にすべきだ」とオバマ前アメリカ大統領に提案したことがありました。このことについて、宮越友里さんは次のように語りました。「有名な人がこういった発言することで救われる人も多くいると思います。私も勇気もらった一人です。ただ、『違法』にするということに対しては、少々賛同しかねます。」と言うのです。いじめられて辛い日々を送っている宮越さんが、どうして『いじめを違法』にすることに少々賛同しかねますと言っているのでしょうか。宮越さんの考えをお伝えし、一緒にいじめについて考えたいと思います。



『いじめ』は人の命を奪いかねませんし、人の人生を狂わせてしまうものでもあります。その上、いじめは暴力的なものや精神的苦痛のみを与えるものなど形も様々で、一見すると『もはや犯罪』というもので、いじめにくくられているものもあります。どんな形であれ、いじめは絶対に許される行為ではありませんし、どんな理由があってもいじめをしていい理由など存在しません。この世の中に、いじめられてもいい人、誰かをいじめていい人は一人もいません。ですが、自分を守るためにいじめに加担したり、誰かをいじめることで自分を保っていたり、いけないことだと分かっているながらも過ちを犯してしまったりする人がいるのも事実です。許されることではありませんが、この『違法』という形が本当に根本的な解決につながるかと考えた時、何か少し違う

のではないかと思います。「違法にしたら本当にいじめはなくなるのか?」「違法にすればいじめの被害者は救われるのか?」と思います。受けたいじめの形や受け止め方も人それぞれ違うので一概には言えないことですが、少なくともあの頃の私自身は救われないうちと思うのです。

私をいじめていた人たちは、元々は私が信頼し、友達だと思っていた人たちでした。中学生だった私が加害者側(いじめた人たち)に望んでいたのは、『私が受けた苦しみ、辛さ、悲しみを、彼女たちに心から理解してもらいたい』『自分たちのしたことが、どれだけ人の人生を狂わせ、どれだけモノや時間を奪ったのかを彼女たちに分かってほしい。そして、それを忘れないでいてほしい』『彼女たちに二度と同じ過ちを繰り返してほしくない』この3つです。

人として生きていく限り、一人の人間として自分のやったことを振り返り、向き合ってほしいとも思っています。私はいじめられたことを許していませんし、これから先も許すつもりは一切ありません。こんなことを言うに「それではあなたが辛いんじゃないか」と言われたこともあります。許すことの方が私は辛いのです。なかったことにはできない、自分の記憶から消すことができない事だからです。しかし、私は加害者側の数人のうち、二人とは和解しています。彼女たちは私が望んだことを理解し、心から謝ってくれました。それはどんなことかという、私がいじめられたことを許していない事、この先も許すつもりはないことも理解してくれています。それでも私と友達として付き合っていきたいと言ってくれたので、忘れることも許すこともできないけれど、新たな関係を築いていきたいと私は提案しました。提案(忘れることも許すこともできないけれど、新たな関係を築く)を彼女たちも受け入れてくれましたが、私が彼女たちに望んだことの意味を理解すればするほど、辛く苦しいことだったと思います。実際、二人のうち一人とは中学卒業と同時に、徐々に疎遠(関係が遠くなっていくこと)になっていきましたし、もう一人も私が高校卒業後、疎遠になりました。高校卒業後に疎遠になった方の彼女は、後に私にこう言いました。「私がこの人を病気になるまで追い詰めた

「なんだ」「私がこの人の人生を変え、健康だった体まで奪ったんだ」「私がこの人の家族まで苦しめていたんだ」「友理ちゃんの顔を見るとそう思って、なんて取り返しのつかないことをしてしまったんだらうって思うと、辛くて苦しくて会うのが怖くて、連絡もできなくなってしまった」と。実は、新たな関係を築いていこうと提案した時から、彼女たちならきっとこの先、今まで以上に私との関係に悩み、苦しむだろうということは、なんとなく分かっていました。許さないということはそういう事を意味すると思っていましたし、彼女たちの性格もある程度分かっていました。それでも、私も許すわけにはいかなかったし、これから先も許すわけにはいかないのです。そうしなければ、私の心が壊れてしまうと思います。ですが、その後また連絡を取り合うようになり、当時のことも含めとことん話をし、二人ともこんな融通の利かないやっかいな私を受け入れてくれました。今ではかけがえのない大切な私の友達です。ただ、本当の意味で新たな関係を築けるようになるまで10年はかかりました。

そこで最初のレディー・ガガの話に戻るわけですが、もし、いじめが「違法」という形になっていたら、私たちの今の関係があったらと思うのです。彼女たちは「心から私の痛みを理解してくれただろうか」「私が望む解決方法が取れたらどうか」と、そう考えると全て違法にすれば救われるとか、解決するということでもないと思うのです。もちろん、もし違法ということになれば、ある程度の基準ができるとは思いますが、その基準も実にあいまいで難しいような気がします。とはいえ、違法にすることで救われる人、救うことができる人もいるでしょう。いじめを違法にするか否かは、やはり難しい問題です。いじめを違法とすべきという意見を出す必要のない世の中であれば、そもそも問題ないのしょうけど…。

ここで宮越友里さんについて、あらためて少し紹介します。いじめによってストレスがかかり、難病と言われる潰瘍性大腸炎にかかりました。この経験からでしょうか、福祉関係の仕事を目指し、高校そして短期大学に進学しますが再び体調が悪くなり、自主的に退学せざるを得ませんでした。病院に入院した時に、お世話になった看護師さんにお礼の気持ちを伝えるためにポストカードづくりを始めました。先ほどから皆さんが見ているやわらかい絵は、宮越さんの絵なのです。そして、その後いじめを受けた経験等をもとに講演活動や、ポストカードの展示会なども開催しています。現在は仕事ができるようになりましたが、上司に事情を伝えて体調等が悪い時には休むようにしていると伺っています。実は宮越さんに講演会に来ていただけないでしょうかとお伝えをしたところ、「今働いていて講演会はしばらく休止しています。ですので、屋代中学校にうかがうことはできませんが、これまで私が書いたことや述べたことは生徒に伝えてください」と言われました。

宮越さんは講演会の中で、具体的にこのようなことも言っています。

いじめられている人、いじめている人、見ている人、誰も幸せにならない。もしいじめている人がいたら、今すぐにいじめに気づいてください。大したことはないだろうと思って発した心無い一言が、言われた側にはグサッと心に突き刺さる『言葉の暴力』なのです。いじめている人や、いじめに気づけない人は、相手を思いやりたり共感したりする力が足りない人だと思います。自分が同じことをされたらどう思うか、相手の立場に立って考えてみてください。それに気づいたら、いじめをやめてください。いじめられている人は、勇気をもって他人に助けを求めてほしいです。これは、いじめに限りません。困っていることがあったら、誰かに助けを求めてください。一度で解決することはできないかも知れませんが、あきらめずに何度でも助けを求めてください。助けてくれる人はきっといます。何よりも自分自身を大切にしてほしいと思います。

校長先生から、宮越さんのお話を聞いた皆さんへ伝えたいことがあります。人間が一緒に生活している以上、必ず、行き違いや面白く思わないことが必ずあります。そんな時、宮越さんの言葉を思い出して欲しいと思います。『いじめはだれも幸せにしない。いじめをする人は共感する力が不足している。いじめられたら誰かに助けを求めろ。』 今月は人権教育月間です。困ったことがあったら誰かに相談をしましょう。担任の先生、教科担任の先生、保健の先生、事務室や図書館の先生、アプリ教室の先生、庁務員の先生、そして教頭先生、私校長、誰でも話を聞きます。最後に宮越さんの描いた絵を見ながら終わりたいと思います。

(※掲載のイラスト：宮越さん「ポストカード」より)



11月(後期)の人権教育月間を通して、さらに自分の人権感覚が磨かれるよう、様々な学習に取り組んでいきたいです。尚、13日(月)には「人権教育参観日/P T A親子講演会」が予定されています。たくさんの方の保護者の皆様にご来校いただけますよう宜しくお願いいたします。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ [連絡事項] ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- 11月の生徒会生活目標は「相手のいいところ自分のいいところをたくさん見つけよう～お互いの良さを認め合える屋中に～」です。人権教育月間とあわせて、普段の生活から意識していきたいです。
- 「延長部活動」がはじまっています。夕刻は、だいぶ日も短くなってきていますので、登下校時の交通安全(自転車運転)には十分に気をつけましょう。